

え ど ベ ン だ よ り
Ed.ベンだより



〒242-0007 大和市中心林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107

電話 / Fax 046-272-8980 Email: toiwase@edventure.jp URL http://edventure.jp/

おかしくなっちゃうくらいおかしいこと

この頃何気なくおかしいことが多すぎて、一つ一つが引っかかるのだけれども、あまりの数の多さに知らぬ間に通り過ぎ、数日で過去になってしまう。こんなことが続くと、いったいぜんたい日本はどうしてしまったのだろうかとも思うのだが、まるで私たちの知らない世界で起きている出来事のようにしか映らなくなっているのが怖い。そこで今回は、ちょっと立ち止まって、(愚痴でも)聞いてください。

〈働けど働けどわが暮らし楽にならざり じっと手を見る〉

厚生労働省の「国民生活基礎調査」の結果が発表された。昨年の6～7月にかけて、約6万1千世帯を対象におこなったものだ。

この調査で明らかになったことはたくさんあるが、まずは、子どものいる夫婦世帯の減少(3割)と単身世帯の増加(2.7割)などの世帯構造の推移は予想通りだったといってよいだろう。気になったのは、18歳未満の子どもがいる世帯では、母親が仕事をしている割合は約7割と、その割合が増加の一途をたどっているのに対し、世帯の所得状況では、その世帯収入が横ばいであることだ。

女性の就労などの社会進出は当然歓迎され、応援されるべきだ。しかし、母親も7割の人が働くようになって、家族の収入は上がっていないのだ！なぜそんなことが起きるのだろうか。それはもちろん、労働賃金が下げられているからだとしか考えられない。二人働いても一人分の給料しかもらえないのだ。逆に言えば、雇う側は、一人分の給料で二人を雇うことができるようになったのだ。これが「女性が輝く社会」なのだろうか。女性の社会参加も安く見られたものだ。・・・これは決して捻じ曲げられることのできない不都合な事実！啄木は己の手をじっと見たが、私たちは、あきれてお互い見つめあうしかなさそうだ。(・・・企業の内部留保は、過去最高に・・・あ～あ)



〈記憶は「意志」〉

新聞の俳句欄に、戦時中をテーマにした作品に対して、「まさしく、記憶するということは意志なのだ」というコメントが載せられていた。

1923年、関東大震災の時、デマによって朝鮮人が多く虐殺された。これは歴史の事実だ。自分たちにとって都合がよかろうが悪かろうが、忘れてしまいたかろうがなかろうが、事実は事実だ。しかし、これも「忘れない」という記憶する意志によってこそ事実は事実としての存在感を持ち続ける。「忘れようとする意志」のほうがもし強ければ、事実は消え去り、都合のいい作り話が、取って代わってそこに居座ることになる。

小池東京都知事は今年も、関東大震災における朝鮮人虐殺の追悼式にメッセージを送らなかった。横浜では、横浜市作成の社会科で副読本からこの事実が消えた。

国会では、森友学園問題で文科省が文章を改ざんしたことが問題となったが、ここでも事実の「軽さ」が浮き彫りになっていた。その後も、経産省では「個人発言は記録不要」と省内で通知したというのだから、この傾向に歯止めはかからない。事実は消え去り、作り話だけが大手を振る。自衛隊の日報隠蔽も同じではなかったか！

歴史や事実が大きく捻じ曲げられそう。そんな動きが本当に多い。記憶は意志だ！たくさんの人たちがその意志を持たなければ、歴史さえも塗り替えられてしまうだろう。歴史を教えるとき、この「意志」も教えるべき時代になったということか・・・！



〈そこのけそこのけ原発とおる〉

電力会社による「出力制御」という言葉を、8月29日の朝日新聞で初めて知った。これは、電力会社

が、発電事業者に一時的な発電停止を求めることだそうで、具体的には太陽光発電が盛んな九州で、九州電力が「出力制御」に踏み切るかもしれないということだ。どういうことか。

日照条件に恵まれた九州では、太陽光発電が普及していて、九州電力管内の電力消費のうち、8割以上を太陽光発電で作った電気がまかなっているという実態がある。ところが電気の需要を超えて供給が増えると、電気の周波数が変動して大規模な停電につながりかねないそうだ。そのため、普段から九州電力では、火力発電を抑えたり、昼間に太陽光発電の電気を使って水をくみ上げ、夜間に水を流して揚水発電を行うなどでバランスを調整してきた。しかし、こうした調整でも難しくなった時に実施するのが「出力抑制」。簡単に言えば、電気が余った時、発電しないように事業者に頼むことのようなのだ。今回は、太陽光発電事業者に対し、発電を抑制するよう要請をする可能性があるとのこと。つまり、電気が余っていて困っているという話。

「ただ話はずう単純ではない。なぜなら、「出力抑制」(国内初)の裏側には原発があるからだ。原発の再稼働によって電気が余るようになった。そこで、太陽光の発電を止めるということだ。まさしく、本末転倒のよう。

これは九州電力に限ったことではないらしい。四国電力でも太陽光発電が8割に達し、まったく同じ状況にあるという。

なんだ、それほど太陽光発電が広がっているなら、原発なんて、いまさら議論するまでもない・・・と思うのだが、そうは問屋が卸さない。そのけそのけ原発とおる。

なにか変じゃない？・・・これは子どもたちに説明できないなあ！



〈呪文〉

某政党の総裁選で、「正直・公正」をスローガンにあげた候補が、相手陣営から、そのスローガンそのものが「個人攻撃」であるとバッシングを浴びた。まして、自身の応援団からも「失礼な個人攻撃」として「自制」を求められたという。「正直・公正」が相手への個人攻撃であるということがどうしても理解できない。さらに、「個人攻撃」だとしてバッシングを受けた当事者も、それからトーンを下げたというのだからなおさら不可解。それほどに相手候補は「正直でない・公正でない」人であるということか？いわれて困るほどに真逆の存在ということなのであろうか？

「正直・公正」は、まるで映画「ハリーポッター」の邪(よこしま)な敵キャラクターを苦しめる魔法の呪文のようだ。それにしても「正直・公正」という言葉が、そんな力を持っていたなんて、盲点だった・・・いや、あまりにもお粗末だ！これだったら、魔法の呪文になりそうな言葉はたくさん頭に浮かんでくる。「平等」なんてどうだろう・・・きっと大きなダメージを与えられそうだ。「平等」や「公平」、「誠実」なんてのもいい。極めつけは、「憲法順守」かもしれない。



朝晩これらを10回ずつ唱えたら、少しは呪文の効果があって、世の中ちよっぴり良くなったりするのかな・・・？なんて考えていたらばかばかしくなった。それほどに邪なキャラクターは弱くない。現代では、そちらは、正直・公正・平等・公平・誠実な人たちよりも強いのだ。そんな正当な魔法の呪文なんて、鼻先でフンと吹き飛ばしてしまうのだ。だから始末が悪い。あー、どこかにすごい呪文はないかしらん？

(・・・大人世界はこんななのに、道徳が教科化されたって・・・不思議！)

10・11・12月のEd.ベンチャーの学習会 ※時間・場所等の詳細はHPをご覧ください。

理論学習会 ●10月15日(月)「子どもが考える授業づくり②ー健康で文化的な最低限度の生活って??ー」文献講読会『先生、貧困ってなんですか?レクチャーブック』 ●11月17日(土)講演「子どもの貧困と乳幼児期における支援」(講師:子どもの虹情報研修センター研究部長 川松亮氏) ●12月3日(月)講演「『若者』たちの貧困の現状と生活保護制度」(講師:一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事・立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授 稲葉剛氏)

授業研究会〈労働教育〉 ●11月15日(水)実践報告会 ●12月13日(木)意見交換会

スタディツアー ●10月11日(木)事前学習会 ●11月24日(土)自立援助ホーム「みずきの家」訪問

特別支援教育のための学習会 ●11月20日(火)現場における実践研修会

【理事のつぶやき】人の笑う顔って、とっても素敵だなんて思う。きっと心がうれしくて、楽しくて、それが顔に出るのだと思う。見ているだけでも心が和んだり、嬉しくなったりする。子どもの笑顔も、大人の笑顔も。みんな笑顔は素敵。なぜか嫌われ続ける外国人のあの子ども、貧困を隠しながら必死に生きるあの子ども、きっとその笑顔は、とっても素敵なんだと思う。どんな時に、その笑顔を見せるんだろう・・・ふと考えてしまう。(MA)